胆石症

上腹部の痛みを訴えて外来受診をされる患者さんの多くが「胃が痛い」と表現されますが、実際に痛みの原因が胃ではないこともあります。上腹部の痛みの原因の中でも比較的頻度が高いものとして胆石症があげられます。10 年以上前の報告ですが、日本の成人における胆石保有率は 10%前後とされており、高齢化や食生活の欧米化などにより現在、さらに増えているものと考えられます。

胆石を持っている人は 50～60 歳の女性に多い傾向にあります。胆石症による痛みの典型的な症状は上腹部、特に右側に発症する鋭く、脂汗をかいてしまうような痛みの発作です。脂肪分の多い食後に生じることが多く、30 分～2 時間ほど持続します。

胆石は、肝臓で産生された胆汁を排泄(はいせつ)する経路に相当する胆管と胆汁を貯蔵するための袋状の臓器である胆嚢(たんのう)に発生します。

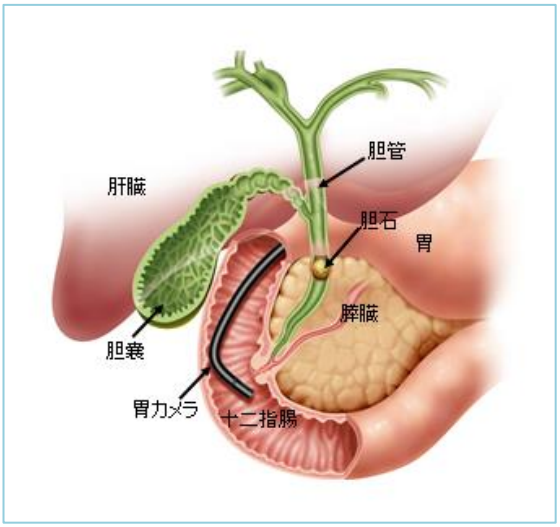
胆石症の診断は画像で行いますが、最も簡便で有用な検査はエコーです。胆嚢内の結石の描出(びょうしゅつ)には優れますが、胆管の描出は難しいこともあり、CT や MRI を組み合わせて診断することもあります。

胆石が原因の腹痛や、胆石が原因で細菌感染を発症してしまう胆嚢炎を発症してしまうなど、症状を伴う胆嚢結石は治療が必要となります。

胆嚢に発生した結石は外科の先生が行う手術で胆嚢を摘出します。腹腔鏡での手術が可能なことも多く、開腹術よりも体への負担が少なく、入院期間も短い傾向にあります。最近は人間ドックなども普及し、エコー検査を受ける方も多いですが、無症状で小さな胆石が胆嚢内に認められた場合は必ずしも治療の必要はありません。

総胆管と呼ばれる胆管に結石を認めた場合は、急性胆管炎という細菌感染の原因となることが多く、症状がなくても治療が必要となります。治療は胃カメラとレントゲン検査を併用した内視鏡的逆行性膵胆管造影検査で主に内科で治療を行い、胆石の除去を内視鏡で行います。

胆石症がご心配な方は最寄りの医療機関で相談していただき、まずはエコー検査をうけてみましょう。



【内科診療部長　小畑　力】